

37人参加、12週間の研修スタート

秋期日本語・日本事情プログラムおよび日本理解プログラム



▲ 歓迎会＝9月22日、生田キャンパスで

「秋期日本語・日本事情プログラムおよび日本理解プログラム」が9月19日(BCレプログラム)からスタートした。参加者は18大学15カ国・地域から来日。米ネブラスカ大学、スペインのバルセロナ大学など国際交流協定の学生を対象に日本語・日本事情プログラムの一環として、12月13日までの12週間、研修に励む。プログラムの一環として、大手企業見学や箱根へのフィールドトリップ、小学校訪問、茶道、書道、ホームビジットなども行われ、日本語と「日本」を多方面から学んでいる。



イタリアのベネチア大学カ・フォスカリのレティツィア・マラストニさん

「歓迎会で、一端康成など日本文学が好き。日本語を専攻し4年間勉強してきました。今回の来日は私にとって初めての海外旅行。12週間みっちり勉強し、語学のレベルを上げたい。日本の文化にもたくさん触れたい」と笑顔で抱負を語った。

家族で相撲道場を訪問



▲ S・リム一家



▲ J・マン一家

S・リム、J・マン両客員教授

スティーン・リム経済学部客員教授(ニュージールランド・ワイカト大学)とジェフリー・マン文学部客員教授(米サスケハナ大学)の2家族が10月7日、相撲道場を訪問し、相撲部の練習を見学した。両氏とも、日本文化に興味を持っており、子どもたちは大喜びだった。

短期留学生も参加

「プレ・ハロウィンパーティー」催。秋期日本語・日本事情プログラムで研修中の田キャンパスで開かれた。国際交流会SHIP(高橋拓間代表経営)の0人が参加し、仮装コンテスト、ゲーム、ダンスなどで交流した。写真。実行委員長の松本清美と話した。



「例年以上の盛り上がりでした」と話した。

「書の」楽しさに魅せられて

大規模な書道展で入賞・入選

木村 江梨子さん(経済2)／長谷川 恵里さん(文2)



長谷川恵里さん

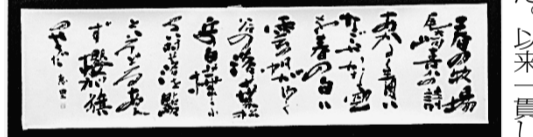
「第60回毎日書道展」のU23部(23歳以下)で入選、「第58回中日書道展」では奨励賞に輝いた長谷川恵里さん。いずれも作品は近代詩で、力強さと温かみのある筆線で見事に表現してみせた。

ワンルームは「鍛錬の場」

井市を中心に活躍する原田凍谷さんが主宰する

「第60回毎日書道展」のU23部(23歳以下)で入選、「第58回中日書道展」では奨励賞に輝いた長谷川恵里さん。いずれも作品は近代詩で、力強さと温かみのある筆線で見事に表現してみせた。

長谷川さんはこれまで何度も各種書道展に入選、入賞しているが、「書の先生が作品を応募してくださっているの、何回入選したのか認識がないのです」。文学部人文学科歴史学専攻の所属ゼミ(日暮美奈子准教授指)



「正月の書き初めやうま書かきなかつたから。千葉敬愛高校では書道部に所属。本学でも書道研究会に入会し、生田キャンパス2号館の書道室で練習に励む。」

子供のころから書道が続いている2学生が相次いで、規模の大きい書道展に入選した。長谷川恵里さん(文2)と木村江梨子さん(経済2)だ。

字の表情見るよう心掛け



▲ 明詩「無数緋桃の蕊」の作品と木村江梨子さん

「『第13回全日本高校生・大学生書道展』で優秀賞を獲得した木村江梨子さんは「入賞は自由のびのびと書きました」と喜びを語った。

「どちらかというと、木村さんは小3から書道始めた。きっかけは、練習に励む。」

「『第13回全日本高校生・大学生書道展』で優秀賞を獲得した木村江梨子さんは「入賞は自由のびのびと書きました」と喜びを語った。」

「大きな自信につながる経験」

育友会創立50周年記念企画の一環として出版された「蒼翼の獅子たち」(関連記事1面)のタイトル募集で「蒼翼の獅子」により、「志茂田賞」を受賞した山中久代さん(文3)＝写真＝にアイデア誕生の秘話を聞いた。



山中久代さん

育友会創立50周年記念企画の一環として出版された「蒼翼の獅子たち」(関連記事1面)のタイトル募集で「蒼翼の獅子」により、「志茂田賞」を受賞した山中久代さん(文3)＝写真＝にアイデア誕生の秘話を聞いた。

たまたま子育てまつり 心理教育相談室が協力



9月21日、川崎市多摩市民館で開かれた子育て支援事業「第6回 たまたま子育てまつり」に本学の心理教育相談室が協力し、子供の遊戯療法・発達心理検査や親のカウンセリングを行うなど、地域住民との交流を図った。写真。

多摩区・3大学連携事業

多摩区の小学生と保護者、大学連携事業の一環として本学も協力。ネットワーク交流会「生田緑地」による交流会「生田緑地」新しい発見!! パート2が9月27日、生田緑地の青少年科学館で行われた。このイベントは日本女子大学人間社会学部主導で昨年からは行われていたもので、多摩区・3学生たちは「コンテンツデザイン基礎演習」の授業で作成し、川崎市立登戸小学校でプレゼンテーションした。パソコンコンテンツと模型(本紙5、8月号)に関する記事掲載のうちに5作品を持ち込み、雲の分りやすい子供たちに伝えた。